

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300016		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	グループホーム もも太郎さん(谷田川)		
所在地	福島県郡山市田村町谷田川字表前58-1		
自己評価作成日	平成29年12月1日	評価結果市町村受理日	平成30年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成30年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の個別支援に力を入れています。  
又、谷田川小学校の生徒さんとの交流もあり、利用者様も谷田川小の生徒さんも楽しみにされています。  
毎日の体操やレクの充実を図り、貼り絵や折り紙も楽しんでいます。  
天候にも応じますが、なるべく外出(散歩も含め)が出来る様に、閉じこもりにならないようにしています。 看取りにも対応し、本人様の希望・家族様の希望が叶えられるように、支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1.全職員で改善シートを使用し、職場の人間関係や利用者のサービス向上のための支援、食事・献立、経費節減等、毎月テーマを決めて問題点を挙げ、原因を分析し解決に取り組んでいる。  
2.外部研修に積極的に参加させたり、内部研修を計画的に実施している。また、資格取得を推奨し、助成金や取得祝い金等の支援を行っている。  
3.地域自治会に加入し、地区消防訓練に利用者・職員が参加したり、事業所秋祭りに地域代表等が参加している。小学生の演芸訪問、歌、踊りのボランティア訪問を通じた交流をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者全員の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「その人らしさを大切にし、1人1人に寄り添いながら、地域での生活が継続出来る様に支援致します」と掲げ、個別支援を実施している。	理念を掲示し、会議やミーティングの場で管理者が周知し実践につなげるよう取り組んでいる。毎年理念の見直しもしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	谷田川小とのつながりを大切にしている。また、地域の敬老会「寿会」とのつながりをもっと密にし、近辺のゴミ拾いをする等もっと地域の一員として活動する必要がある。	地域自治会に加入している。田村町の演芸会に参加したり、谷田川地区消防訓練に職員と利用者が参加している。また、事業所で小学生が太鼓演奏や劇を披露したり、踊り、カラオケ等のボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的な運営推進会議にて、認知症の人の理解について話し、理解を深めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	意見を頂き、それに対する改善結果や話し合いをし、サービス向上に繋がられるようにしている。	定期的に関催し、利用者の状況や職員異動について、行事予定や事故報告、ボランティア受け入れ等について、提案をいただいたり、改善状況等について報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護サービス相談員が、月に2回来設され、利用者様個々に話しをしてくださり、職員の相談にも乗って下さっている。生活支援課の担当の職員さんとも密に連絡を取り合い生活保護の利用者様の状況報告等もしている。	会議等で担当者との情報交換をしたり、生保受給利用者や事故報告、介護認定の変更等について相談するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1~2回身体拘束の内部研修を実施し、職員が、勉強する機会を設け、やむをえない場合は、家族様へ説明と同意を得て、4点柵等も実施していたが、外す方向性もきちんと視野に入れている。玄関の施錠は、実施していない。	身体拘束排除マニュアルに沿った研修を通し、拘束の弊害を周知し、玄関の施錠を含め拘束をしないケアに努めている。家族と早い段階からリスクについて話し合い、その情報を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に年に1~2回内部研修を実施し、職員への学ぶ機会を作っている。声かけの仕方についても、職員個別に面談や注意にて、防止を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	若年性認知症の軽度の利用者様には、就労支援に通って頂いている。自立支援事業や成年後見制度の内部研修を実施し、学ぶ機会を設けている。実際に成年後見人が付いている利用者さまもおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	金額も含め、契約の際にきちんと説明し、納得を得られてから、契約書にサインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会又、面会の際等に、意見を聞き、反映できるものに関しては、反映している。	日常の会話や家族面会時、家族会、法人の家族アンケートを通して、利用者・家族の意見や要望を運営に反映するよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員より「改善シート」の提出で提案や意見を、聞き反映させている。	管理者は職員と毎月個別面談を行い、働きやすい職場環境づくりに取り組むとともに、毎月、改善シートを使用し、職員の意見、提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト通りに勤務したものに対し、「シフトクリア手当」として支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報があれば、職員に希望者を募り参加を促し、学ぶ機会やモチベーションのアップが出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に参加して、同業者との交流を図っている。外部研修に参加した際に、若干の同業者との交流がある。今後は、別法人の同業者との交流は勿論だが、同法人内の交流の充実を図っていきたい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査、契約の際、本人様の話に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査、契約の際、ケアプランの意向確認と同時にご家族様の困っている事をお伺いし、少しでも力になれる様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番必要としている支援を見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と、一緒に出来る様な関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	法人の理念である「家族の絆」を継続出来る様に、関係構築に努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力の元、受診・外出の際に親戚の方に会いに行ったり、近所の方が会いに来て下さったりしている。	知人が訪ねてきたり、希望により地域の理美容院や買い物に出かけ、これまでの馴染みの関係が途切れないよう支援している。また、家族の協力を得ながら外食やドライブ、墓参り等にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格等を考慮し、お話ができ、孤立しないように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても、問い合わせがあった場合は、相談やフォローさせて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から、暮らし方の希望・意向を聞いてなるべく叶えられるようにしている。また、聞きとりが困難な方でも、少しの訴えや表情等から汲み取るようにしている。	本人や家族から思いや暮らし方の希望を把握し、家族の協力を得ながら自宅訪問や外泊をしたり、買い物、趣味活動の支援をする等、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様に協力頂き、生活歴に記入いただいたり、以前使っていたサービスがあれば、担当ケアマネさんより情報を頂き把握に努めている。また、入居後も、会話の中から汲み取れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様が自分なりに生活出来る様に支援している。又、個々の有する力や体力を考慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や主治医と相談しながら、モニタリングを実施し、統一ケアやケアプランへの反映に繋げられるようにしている。	これまでの生活状況や現在の生活能力や趣味、医師等関係者の意見、本人、家族の希望を踏まえ、より良く暮らすための生活課題、ケアのあり方を検討し、3ヶ月毎に見直しをしている。生活状況に変化があった場合は現状に応じた課題の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスや申し送りノートの活用にて、情報共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	若年性認知症の方の就労支援を勧めるなど、ご家族様と連携し、一緒に本人様を支えられるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で区長さんはじめ、民生委員さんと意見交換している。包括の職員さんと情報交換を含め協力している。二か月に1回の地区の理髪店の来設や小学生の来設もある。近くの根本医院の往診・受診や歯科受診も支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	大きな病院が、主治医の際は、ご家族様と相談・納得の上紹介状を頂き、引継ぎ等にて風邪や便秘等の際に対応できるように往診医や近くの協力医療機関にて対応している。	かかりつけ医は、利用者・家族と事業所が話し合い、殆どが事業所近くの協力医療機関としている。協力医による月2回の定期的な往診があり、受診結果は電話等で家族に報告し共有されている。協力医以外の医療機関に受診する場合は、家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師は、いないが、介護員からの報告や気づきを主治医に伝え、適切に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療連携室との連携や介護サマリーの提供にて連携。退院時は、看護サマリーを頂いたり、ムンテラに参加したりして関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したり、終末期が近づいた利用者様に対しては、ご家族様に早めに説明し、又、主治医より直接説明頂き、施設で出来る事を十分に説明し、同意書を頂きチーム支援をし、対応している。	入居契約時、重度化・看取りの指針を説明している。事業所は、早い段階から事業所でできることを家族に説明し、主治医、家族等と話し合いを行い方針を共有して、家族の見守り等協力を得ながら支援に取り組んでいる。看取りに対する研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1回のペースで、職員は自主的に「心肺蘇生法」の講習を受け、急変時に対応出来る様になっている。また、内部研修にて、「救急車対応時のシュミレーション研修」を実施し、実践力が身に付くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練の実施や地域の避難訓練の参加にて、連携している。今後、通報訓練や地域の方の参加促しも充実していく必要がある。	火災を想定した避難訓練を2回、通報訓練を1回実施している。また、地域の消防団等との協力体制が取られているが、地震や水害等を想定した訓練や、地域住民や消防署の協力を経た訓練は実施されていない。毛布やオムツ、水や缶詰、レトルト食品等、災害に備えた備品を準備している。	地震や水害等を想定した訓練や、地域住民や消防署の協力を経た訓練等数多く実施して欲しい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助の際は、扉をプライバシーを損ねない程度閉める。 大きな声でトイレの声かけをしない等配慮している。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない、やさしい声掛けに心掛けている。入室時には必ず声掛けをしている。また、個人情報保護のため、関係書類は鍵の掛かる書庫で管理し、取扱いの研修会も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の機会があれば、なるべく答えを引き出せる様に支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先になりがちであるが、利用者様のペースで何時も過ごせる様に職員個々に意識して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な利用者様は、入浴の際に自分で衣類を選んで頂けるように支援している。今後は、「おしゃれの日」等を作り、少しでもおしゃれが楽しめる様に支援したい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	可能な利用者様に対しては、職員と一緒に食事の準備をして頂き、対応している。	できる方は、食材の購入や下処理、盛りつけ、洗いもの等、職員と共に行っている。また、職員も利用者と同じテーブルを囲んで、楽しく食べている。四季折々の行事食を実施し、手作り弁当を持参し行楽地に出かけたり、毎月外食にも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量には、十分に注意を払い、食事量が少ない利用者様に関しては、介助・主治医と相談し対応。水分に関しては、好きな飲み物を提供したり、トロミをつけたり対応し、適量摂れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科受診や、みがき直し、毎食後の口腔ケア支援にて対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく「オムツにしない支援」を心がけ、定時での声かけや誘導にて、トイレでの排泄を促している。 「掴まって立てれば、トイレでの排泄」をモットーにしている。	「オムツにしない支援」に取り組んでおり、定期的な声掛けや、排泄チェック表等により排泄パターンを把握しながら、その人に合ったさり気ない声かけや誘導をして、できるだけトイレで排泄できるよう支援をしている。紙オムツやパット等の経費削減にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく、野菜の摂取や運動の促し、また、ヨーグルト等を提供し取り組んでいる。ラキソ等も使用し、なるべく自然に排便の促しが出来る様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	「入りたい」との希望があれば、入浴が出来る様に支援している。また、ゆっくり入浴が楽しめる様に支援している。	毎日入浴することが可能であり、利用者の希望に合わせた時間の中で、ゆっくり入浴できるよう支援している。お湯はその都度入れ替えをして、好みに合わせた湯温の中で、入浴剤を使用したり、季節感が味わえるようなゆず湯等の支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力状態等に応じて休息がとれるようにしている。また、夜間眠れるようにハーブティーの提供等も試みている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が個々に、1人1人の利用者様の薬に理解を持つようにし、都度作用や副作用について調べている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し・食器洗い・盛り付け等手伝って頂き、時には、買い物と一緒にいたり、欲しい物を選んでいただき、自分でお金を払ってお釣りをもらうような支援をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	限られた利用者様にはなってしまうが、毎月1回、食べたいものを食べに行く支援をしている。	利用者の体調等に考慮しながら、近隣を散策したり、花見や紅葉狩り、買い物や外食等多くの外出支援をしている。また、家族の協力を得ながら外泊や墓参りをしたり、ドライブ等に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる利用者様に関しては、お金の管理もして頂き、買い物へ行ったとき、自分で払って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、職員の取次はあるも、自由に来る様に支援し、手紙は、希望時に対応し、年賀状のやり取りができる様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに、季節感のある装飾等をし、季節感が出る様にしている。	季節毎に、利用者の作品や小正月飾り、雛段飾り等を行い季節感や生活感を採り入れている。また、室温や湿度管理を徹底し、清掃も行き届いており、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置を気の合う利用者様同士にしたりと都度の対応をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居の際、また都度都度本人様やご家族様に、自宅ですべて使っていたものや馴染みの物を持参していい事を説明し、その人らしく過ごせる空間づくりができる様にしている。	机や椅子、家族写真や小物入れ等が持ち込まれ、自作の手工品等を飾り、利用者が落ち着いた生活ができるよう配慮している。また、清掃と整理整頓が行き届いており、清潔な環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様の居室に名前を表記したり、トイレと表記したり、表記があれば自立できることが多々ある為、工夫している。		